

八雲

令和7年度「介護職員の働きやすい職場環境づくり 内閣総理大臣表彰及び厚生労働大臣表彰」

厚生労働大臣表彰 奨励賞受賞！



令和7年度「介護職員の働きやすい職場環境づくり」
厚生労働大臣表彰 奨励賞

北海道から3法人！



表彰状が届き次第SNSアップします！

このたび、コミュニティホーム八雲が 厚生労働大臣表彰 奨励賞 を受賞いたしました。

これは、職員の待遇改善、人材育成及び介護現場の生産性向上への取組が特に優れた介護事業者へ表彰されるものです。同施設では、右記の取り組みが高く評価され、受賞につながりました。

また、取り組みによりご利用者と接する時間が以前より増えたことで、さらなるサービスの質の向上に繋げていく意気込みです。



ICT活用

- ・ Bluetooth体温計・血圧計で自動入力、誤入力を防止
- ・ 職員全員がシステムに情報入力し共有
- ・ 睡眠センサー「眠りSCAN」、排泄記録システムを導入



ノーリフティングケアの推進

- ・ 腰痛対策として介護ロボットや補助具を導入
- ・ 職員アンケートで腰痛に係る実態調査により負担大の作業場面把握、ストレッチ啓発。
- ・ スライディングボードの使用マニュアル化。
- ・ 移乗機器「SASUKE」「Hug」を導入。
- ・ フローチャートを作成し器具選択を明確化。
- ・ リフトリーダー研修で専門職員を育成。

手稲

令和7年度 全国老施協北海道ブロック大会

全道老人福祉施設研究大会 最優秀賞受賞！



百武主任・高澤ケアマネ

このたび、手稲つむぎの杜が 令和7年度全道老人福祉施設研究大会にて最優秀賞 を受賞いたしました。

演題名「絶対家に帰りたい～90代夫婦の絆～」として、高澤ケアマネジャー、百武リハビリ主任が発表者を務めました。全国のステージに進む仲間は私たちの誇りです！

皆でエールを送りましょう！

選ばれる施設・事業所 になるために

管理職の役割

トップがまず考えるべきは、 事業の成果＝収益率

幹部研修の実施は、中長期計画「ビジョン福祉45」策定時以来、実に4年ぶり。介護事業者を取り巻く環境は大きく変わっています。かつての措置制度と異なり、今は「利用者に選ばれる施設・事業所」であることが、存続と発展には不可欠です。

講師からは「トップがまず考えるべきは事業の成果＝収益率」という言葉が投げかけられました。収益率は単なる数字ではなく、私たちが提供するサービスの質や地域からの信頼の総合的な結果であり、選ばれ続けるための指標でもあります。

この数字を生み出すのは現場での一つひとつの実践であり、ご利用者・ご家族との関わりの積み重ねです。経営の意思決定と現場の取り組みは地続きであり、その両輪が揃ってこそ法人の未来は拓かれます。

人材不足や様々な課題を前に、 どう持続可能な経営を実現していくか



2025.7.11

法人内の次長職以上の職員28名が一堂に会し、幹部職員研修会を開催しました。今後も選ばれる施設であり続けるために、管理職が果たすべき役割を再確認。



骨太の方針2025や次期制度改正の論点を踏まえ、介護・医療の現場には自立支援、生産性向上、人材マネジメントといった重要課題が突きつけられています。

特に、人口構造が大きく変わる2040年問題は最大の課題と位置づけられ、「人材不足や財源の制約を前提に、どう持続可能な経営を実現していくか」が、これからの管理職に求められる視点であることが示されました。

多角的な視点からの解説をふまえて、後半ではグループワークも実施。グループごと課題を抽出し発表することで、各施設の現状と今後に向けたアクションへの理解を深めました。

私たちは法人スローガンのもと——
「課題を一つひとつ乗り越え、必要とされる存在であり続ける」

その決意を胸に、幹部職員が力を合わせて課題に挑み、未来へと持続可能な法人を築いていきます。

—認知症とともに生きる社会へ—

第3回認知症ケアリーダー会議 開催

2025.8.28

前半は7/17開催した「意思決定支援研修」の振り返りから。研修で感じたことや日常のケアにどう活かすかを議論し、言葉で表現できない方への対応や、外国籍スタッフとの協働についても活発に意見交換しました。

後半は、ひもときシートを使った実践トレーニング。架空の事例をもとに、本人視点での課題の背景や原因の整理、本人が求めていることの推測、具体的なケアの検討を行いました。BPSDは本人のSOSであり能力の現れであること、背景を理解することの重要性を再認識しました。

ケアリーダーによる各事業所での勉強会も予定しています！



ひもときシートとは

アセスメントツールではなく、事実と根拠に基づいた適切なケアに繋げていくための思考を整理するためのツールです



介護者視点→本人視点

私たちの思いこみやその場しのぎのケアではなく、事実に基づいた情報を整理し言動の背景を本人視点で考えます



気づきと学びを共有

他グループのひもときも共有して更なる気づきと学びを共有！

認知症カフェモデレーター研修 24名参加



認知症介護研究・研修仙台センター主催
2025.8.2-3

認知症カフェは、オランダで始まりました。「認知症とともに生きる人とその家族の苦しみを軽減し、友人や地域の人々が誤解なく深く理解できるように」という理念のもと、誰もが入りやすく、リラックスした雰囲気を大切に広がってきました。

しかし近年は、その哲学が薄れ、レクリエーション中心の活動にとどまる実績もあると言われています。

私たちは原点に立ち返り、「共生社会の実現を推進する認知症基本法」の趣旨を踏まえ、地域の皆さまとともに認知症への理解を深める取り組みを進めてまいります。

Topics



札幌北斗高校2年生がフィールドスタディで月寒あさがおの郷へ来訪！

9/5（金）、株式会社マイナビLocusのプログラムで、月寒あさがおの郷に札幌北斗高校の2年生10名がフィールドスタディに来てくれました。

テーマは「介護・福祉」と「まちづくり」。講義・施設見学・グループワークを通じて、福祉が“日々の暮らしと深くつながっている”ことを体感していただきました。

片手でお菓子を開ける体験では、難しさを通して「できないこと」への歯がゆさや支援の必要性を実感。介護課長からは、「介護される人の気持ちをどう汲み取り、安心して生活が豊かになるよう支援できるかが大切」と伝えられました。

また、地域活動の紹介では「施設のなかだけでなく、地域に還元する大切さ」にも触れました。グループワークでは町内会の人手不足やバリアフリーなど地域課題をテーマに活発な意見交換が行われ、高校生ならではの柔軟な発想に私たちも刺激を受けました。

福祉は日常の小さな心遣いや「もっと快適に暮らすには？」という気づきから生まれます。今回の学びが皆さんのこれからの挑戦や未来づくりの力となりますように。

私たちも、介護福祉とまちづくりを通じて安心できる社会を共に育んでいきます。



メディア掲載

介護新聞 1面掲載！



8/29付けの介護新聞 1面に、カームヒルマルシェの初開催の様子が大きく掲載されました。

マルシェでは、多くの皆さまにご参加いただき、久しぶりの再会に喜ばれる方、出店を楽しまれる方など、たくさんの笑顔が広がる時間でした。

第37回溪仁会グループ研究発表会！

今年度は社福より21演題のエントリーがありました！9月12日（金）より、研究発表会フォーラムシステムを利用し公開されています！ぜひ日々の取り組みの成果を共有しましょう！

10/18の発表会での応援もよろしくお願いいたします！

編集後記

高校生との探究授業での“ちょっとした気づき”が福祉のヒントになること、そして日々の小さな積み重ねが大きな実を結ぶことを改めて感じました。日常の実践の様子をSNSでも少しずつ発信していければと思います。 広報担当:中谷

ひとりと向きあう。

社会福祉法人
溪仁会



SNSで施設の様子を紹介しています。ぜひご覧ください！

発行：社会福祉法人溪仁会
発行責任者：法人本部長 辻村 真

〒064-0823
札幌市中央区北3条西28丁目2-1
TEL (011) 640-6767